



沖繩総鎮守
旧官幣小社

波上宮 略記

〒900
-0031

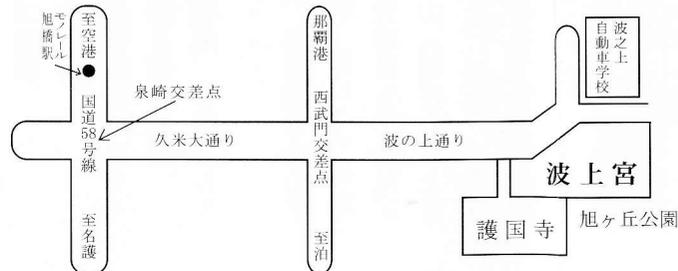
沖繩県那覇市若狭一丁目二十五番十一号
電話 〇九八(八六八)三六九七(代)
FAX 〇九八(八六八)四二一九

ビーチ側よりみた景観



交通

- 那覇空港 → [モノレール10分 → 旭橋駅下車 → 徒歩約15分
バス 20分 → 西武門下車 → 徒歩約3分
タクシー 10分] → 波上宮
- 那覇港 → [バス 10分 → 西武門下車 → 徒歩約3分
タクシー 5分] → 波上宮
(船泊)
- 那覇新港 → [バス 30分 → 西武門下車 → 徒歩約3分
タクシー 10分] → 波上宮
(船泊)



沖繩総鎮守
旧官幣小社

波上宮 略記

御祭神 (三座)

主神 伊弉册尊

速玉男尊 (左神座)

事解男尊 (右神座)

相殿神 竈神 (火神)

産土大神

少彦名神 (薬祖神)

御由緒

当宮の創始年は不詳であるが、遙か昔の人々は洋々たる海の彼方、海神の国（ニライカナイ）の神々に日々風雨順和にして豊漁と豊穰に恵まれた平穏な生活を祈った。その霊応の地、祈りの聖地の一つがこの波の上の崖端であり、ここを聖地、拝所として日々の祈りを捧げたのに始まる。

波上宮の御鎮座伝説に『往昔、南風原に崎山の里主なる者があつて、毎日釣りをしていたが、ある日、彼は海浜で不思議なものを言う石を得た。以後、彼はこの石に祈つて豊漁を得ることが出来た。この石は、光を放つ霊石で彼は大層大切にしていた。このことを知った諸神がこの霊石を奪わんとしたが里主は逃れて波上山（現在の波上宮御鎮座地）花城とも呼んだ』に至った時に神託（神のお告げ）があつた。即ち、「吾は熊野権現也この地に社を建てまつれ、然らば国家を鎮護すべし」と。そこで里主はこのことを王府に奏上し、王府は社殿を建てて篤く祀つた』と云う。

以来、中国・南方・朝鮮・大和などとの交易（琉球王府直轄事業）基地であつた那覇港の出船入船は、その都度、波上宮の鎮座する高い崖と神殿を望み、出船は神に航路の平安を祈り、入船は航海無事の感謝を捧げたという。また人々は常に豊漁、豊穰を祈り琉球王府の信仰も深く、王みづから毎年正月には列を整え参拝し、国家の平安と繁栄を祈るなど朝野をあげての崇敬をあつめ、琉球八社（官社）の制が設けられるや当宮をその第一に位せしめ、「当国第一の神社」と尊崇された。明治の御代になるや、同二十三年官幣小社に列格し、沖繩総鎮守としてふさわしい社殿、神域の結構を見るに至つたが、先の大戦で被災した。

戦後は、昭和二十八年に御本殿と社務所が、同三十六年には拝殿が再建された。そして平成五年、平成の御造営により、御本殿以下諸社殿が竣工。翌年五月、諸境内整備が完工した。

文献等に見る概略年表は以下の通りである。

略年表

正平二三年(一三六八)：頼重法印が当宮の別当寺として護国寺を建て王の祈願所とする。
大永二年(一五二二)：倭僧日秀上人、当宮を再興。

慶長十年(一六〇五)：倭僧袋中上人が「琉球神道記」の中に「当国第一の神社」と記す。
元和九年(一六二二)：「おもろ草紙」巻十が完成。歌中に御造営の様子あり。

寛永十年(一六三三)：社殿炎上。同十二年再興。

享和三年(一八〇三)：社殿大破。それまでの三殿を一殿に改め三戸前として改築。

明治二三年(一八九〇)：官幣小社に列格す。御鎮座告祭式を行う(現、例大祭日)。

昭和十年(一九三五)：御再興三百年祭を行う。同十三年頃にかけて神苑整備。

昭和二十年(一九四五)：戦火激しく、御神体を奉じ安原宮司、摩文仁に避難。

昭和二十七年(一九五二)：上原宮司復興に着手。ハワイの募金により、翌年本殿と社務所が竣工。本土に呼び掛け、同三十六年に拝殿が竣工。

昭和四七年(一九七二)：本土復帰を迎え、沖縄復帰奉告祭を行う。皇室より幣帛料を賜る。

昭和六二年(一九八七)：旧社務所並び参集所を撤去し、社務所を新築。

平成二年(一九九〇)：御大典を記念して、第一鳥居を改築建立。

平成五年(一九九三)：平成の御造営(本殿・拝殿の再建)完成。正遷座祭斎行。

翌年五月、全整備事業を了へ、竣工奉告祭が斎行さる。

平成十五年(二〇〇三)：第二社務所を新築。

平成十八年(二〇〇六)：波上(ナンミン)が、那覇市文化財に指定さる。

御神徳

古くより琉球朝野のあつい崇敬を受けて沖縄総鎮守の神としての御神威は古今を通じて高く、国家鎮護・海外貿易の航海安全を始め豊漁・豊穰・諸産業の振興を守護され、又身近には安産・家内安全・子孫繁栄・延命長寿の信仰は古昔よりあつく、近年は結婚式・建築関係・商売繁昌・受験合格祈願・初宮詣・厄除・交通安全祈願(車のおはらい)等、諸願成就の神として神徳著しく、正に「守礼の邦」沖縄の永世泰平の守護を戴く御神徳である。

祭典

歳旦祭から大晦日の除夜祭まで毎年数十回の大・中・小の恒例祭典が行われて世界の平和、国家の安泰、県民の福祉平安、諸産業の繁栄、崇敬者の家内安寧、健康、幸福が祈られる。

歳旦祭 一月一日 一年の最初の祭り。新年を祝い国運の隆昌と世界の平和を祈る。

元始祭 一月三日 年の始めに大元を仰ぎ、国家国民の繁栄を祈る。

節分祭 二月三日 節分(立春前日)に邪気・災いを払い、豆撒神事(鬼やらい)を行う。

この節目の日に厄祓を行うのが本来であった。

紀元祭 二月十一日 建国の祖、第一代神武天皇の御即位の日。国の誕生の日を祝い、国家安泰を祈る。

祈年祭 二月十七日 (としごいのまつり、と訓む)この発芽の時期に五穀豊穰、諸産業、全ての生成発展を祈る、予祝の祭り。

春分祭 春分の日 春の祖霊まつり。(報恩の誠心を捧げ、祈りまつる)

昭和祭 四月二十九日 昭和天皇御生誕の日。緑化推進、世界平和を願われた昭和の御代を偲び、その成就を祈る。

例大祭 五月十七日 官幣小社列格、御鎮座告祭式の日を大祭日とし、古くからナンミン祭と呼ばれ県民に親しまれている。

大祓 六月三十日 一年前半の知らず知らずの内に身についた罪けがれを、種々の祓神事を以てはらう夏越のおはらい。(茅輪くぐりの神事)

秋分祭 秋分の日 秋の祖霊まつり。(報恩の誠心を捧げ、祈りまつる)

神嘗 十月十七日 新穀を祖神に捧げる祭りで、伊勢神宮の神嘗祭にあわせて当宮の奉賛会大祭が行われる。

明治祭 十一月三日 明治天皇を仰ぎ文化産業の発展、世界平和を祈る。

七五三祭 十一月十五日 子供の無事成長を祈る。七才までは「神の子」と言われ、人々は子供を大切に育てることを誓い、無事育つことを神に祈った。

新嘗祭 十一月二十三日 大神様の御恵みに感謝する収穫の祭で、古来から宮中、各神社、各家庭で行われた。神と人とが共に新穀を戴くのが本義とされる。

天長祭 十二月二十三日 聖寿を慶祝し、大御代の長久、又皇室の安泰を祈念する。

御煤納 十二月二十五日 正月を迎えるに当り社殿の大掃除が行われる。

大祓 十二月三十一日 一年後半の罪けがれをはらう年越のおはらい。

除夜祭 十二月三十一日 一年最後の祭りで、一年の大神様の御恵みに感謝が捧げられる。

月次祭 毎月一・十七日 月ごとの祭で、崇敬者を始め世の平安と弥栄を祈る。